



170年前の森をめざして。

— 橋野鉄鉱山稼働時代の森づくり育樹祭 —

三陸中部森林管理署

「橋野鉄鉱山稼働時代の森づくり育樹祭」は、世界遺産「橋野鉄鉱山」周辺の国有林を約170年前の広葉樹の森に再生させる取組です。今年は11月13日（いい遺産の日）に開催され、釜石市職員や当署職員のほか地域の方々が参加しました。これまでは人工林の除伐や枝打ちを実施してきましたが、世界遺産登録10年目の節目となる今回は、景観保全・安全管理の観点から、同鉱山内の二番高炉跡付近の倒木や枯死木の除去作業に汗を流しました。

作業の合間には釜石市世界遺産室長から、高炉建設に使われた採石の跡や遺物を目の前に、「あれが鑿（たがね）のあとで、切り出した岩で、おそらくここに高炉を作った。うまく切り出せなかったものは、沢や歩道に使われていて、無駄がなくて合理的。機械がないからこそその智慧だよね。」と、たいへん有意義なお話がありました。

いにしえの森に思いを馳せながら作業すること1時間半。倒木が除去され、すっきりとした斜面となりました。



橋野鉄鉱山周辺の国有林は戦後、木材需要に対応するために、スギやマツなどの針葉樹が植栽されました。この取組では、針葉樹の間伐を繰り返しながら最終的な伐採段階まで資源を有効活用し、徐々に広葉樹を増やしていく予定です。これからも市内外の関係機関や地域の皆様の協力を得ながら森林を管理し、また、より多くの人が橋野鉄鉱山を訪れることを願います。